



大阪府立芥川高等学校入学式



新入生を迎えて
〔4月8日 入学式〕
4月8日(木)午後、第42回入学式を行いました。320名の新入生は真新しい制服に身を包み、芥川高校の生徒となるべく決意を新たにしていきました。また、保護者の皆様にも多数ご列席いただきました。

第42回入学式式辞

校長 高江洲 良昌

先日の雨であたり一面を華やかに彩った桜の花びらは、すべての生きとし生ける物に命を吹き込んでくれる緑に変わろうとしています。この良き日に、令和三年度の入学式をこうして挙行できますことに、心から感謝申し上げます。ただ今、入学を許可しました320名の新入生である42期生の皆さん、入学おめでとうございませ

す。そして、これまでずっとお子様のすぐ側で支え、温かく見守って来られた保護者の皆様、お子様のご入学、誠におめでとうございませす。心よりお祝い申し上げます。

新入生の皆さんにとって令和2年はどのような年でしたでしょうか。高校受験で合格を勝ち取るため多くのことを我慢し、目的を達成するためにひたすら努力を積み重ねてきたことでしょうか。一方、受験生のみならず大人である私たちも経験したことのない感染症の前に立ち尽くし、いまだ知らない未知なる道を行きあぐねました。

私は教員として触れ合う生徒に「欲」を、「夢」をもちなさい。「やりたいこと」「なりたいたいもの」を見つけてください。しかし、現実には、唐突な入試制度の変更、始まらない新学期、最後の試合に出ることの叶わない部活引退、相次ぐコンクール、コンテストの中止、休校による研究発表の断念等々、進むべき目の前にある一本の道は、さながら延々と続くマインスの記号の連続のように見えました。

教員としての自らの力のなさ、未熟さを感じているその横で、あちらこちらで大きなハンマーを持って地面に杭を打ち込んでいる生徒の姿が見えました。具体的には登校ができるようになったその日の朝7時に教室で自習を始める生徒、ユニフォームに身を包み黙々とバットを振る部員、体育館で目の前を駆け抜けランニングシュー



ぞれの生徒がその時にできる精一杯の努力をする姿に驚き、又、胸を打たれました。マイナスの大地に打ち込まれた杭は、たくさんのプラスの文字を描きだしていたのです。あちこちに見えるプラスの文字、そのプラスの文字を眺めながら口にしていた言葉、それは又、十、又、十、そしてその十と又という字を組み合わせてできる文字、それは支えるという漢字。それぞれ、一人一人の生徒が自分の夢を追いかけ、目の前の自分の課題を果たしている。その姿は、お互いにとって支え、支えられるものになる。自分が取り組む姿が、どこかで、誰かを支えている。

まずは、一人一人が心の中で「夢、願い、想い」を持つこと。「夢、想い、願い」を口にすること。そして周りの人はその口にした人に対して、「いいね」をつけてください。夢を追いかけるのは苦勞はつきもの。皆さん、「苦勞」の「勞」という字を訓読みで読んでください。「勞わり」「勞い」ですね。「勞わり」「勞った」結果心が「癒される」。みんながお互いに支えあうために「いい、勞わり」「いい、癒し」「ね、勞う」の「いいね」をつけるのです。決して夢を語る人に「いい、怒り」「いい、苛立ち」「ね、妬み」ではいけません。

どうすれば「勞わり」「癒し」「勞う」ことができるのでしょうか。観察することです。周りの人が十を築きあげていることに、気付くことです。そしてその気づきを口に出し、言葉にすることです。一生懸命やって力を出し切った仲間「お疲れさま」、ミスをしたことを謝るチームメイトに「お互いさま」、よくやったねと褒めてくれる友達に「お陰さま」。勞わり、癒し、勞うために3つの様、「お疲れさま」「お互いさま」「お陰さま」と声を掛け合います。その言葉を、口にし、耳にすることで、「いいね」が飛び交い、支えあうTEAMになれるはず

です。新入生、在校生、教職員、あらゆる芥川高校で共に過ごすすべての人がそれぞれの目指す何かに向かってあちらこちらにいたるところで十を築きあげていく。周りの人はそれに又、十と気づいていく。それがお互いを支え、支えられていくことになる。「3つの様」を敬い、声を掛け合いながら前へ進んでいくのです。その経験を積んだ皆さんの前途が明るくならないはずがなく、またその皆さんが触れ合う人を幸せにできないはずがありません。たくさんの「いいね」が飛び交い、明るく、前向きな学校生活を送れ、自己を実現し、夢をかなえる第一歩を踏み出し、もたらえることを祈念し学校長の式辞といたします。

教職員人事異動のお知らせ

新着任

4月1日付で本校に着任した教職員です。

転出・退職

3月31日付で本校から転出・退職した教職員です。